

# 活動報告書

報告者氏名: 正木生子

所属: 高知県立高知若草養護学校

記録日: 2015年2月25日

## 【対象児の情報】

- 学年 高等部 2年
- 障害名 脳性まひ
- 障害と困難の内容

- ・筋緊張のため、いす座位姿勢では下肢が左に傾き、上体も左に傾くことが多い。
- ・筆記や作業など右手で行っているが、筆記等には時間を要する。
- ・視機能アセスメントでは、目と手の協応、図と地、視覚運動動作などが苦手であった。
- ・資料等の整理が苦手で、必要なものを探すことには時間がかかる。

## 【活動目的】

### ○ 当初のねらい

- ・授業内容の理解と定着を図る。
- ・自分なりの学習方法を身につける。

### ○ 実施期間

2014年6月から2月（対象児の体調不良や学校行事のため不定期に実施）

### ○ 実施者

池内順子、森光平、川村紀美、三好秀一、濱口君代

### ○ 実施者と対象児の関係

教科担当者（数学Ⅰ：週3時間、現代文A：週3時間、コミュニケーション英語：週2時間  
日本史A：週2時間、保健：週1時間

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○ 対象児の事前の状況

- ・教科書のページをめくるなどの手指の操作性を求められる動作には時間がかかる。
- ・筆記に時間を要するため板書はiPadのカメラで写してノートに代用する。
- ・筆記は最小限に抑えているものの、書写に集中してしまい学習内容の説明に集中できない場面がみられる。
- ・提示された教材やプリントの見えづらさから、教師の示す場所を探すことに時間がかかる。

### ○ 活動の具体的内容

実施者5名と報告者で月に1～2回情報交換会を行い、実施者が視覚支援と操作性を考慮して各教科で共通した配慮のある教材提示をして、生徒の意見を取り入れながら取組んだ。

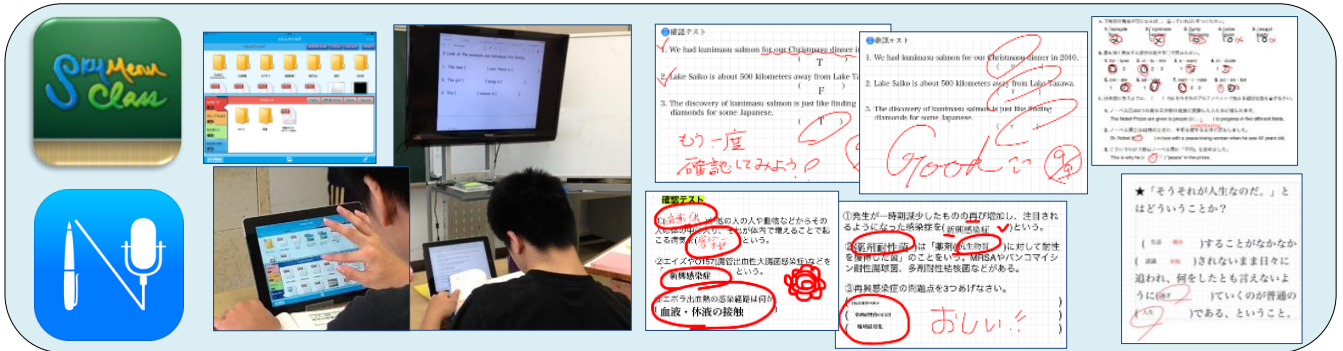
#### ① 板書やプリントの作り方を確認

ゴシック体・太字・行間を広く、シンプルにして空間を多くとる。注目させたい部分は目立つようにラインを引く。記入式のプリントは書く場所を明確にする。〈図1、2〉



## ② について

配付された資料や採点後のミニテストが iPad 一つにコンパクトにまとまることで場面を選ばず学習に活用できた。実施者は授業で実施したミニテストを放課後採点して、その日のうちに「SKYMENU」を使って生徒に再配付することも可能となった。〈図 3〉



〈図 3 「SKYMENU」と「Note」を活用したミニテスト実施・採点・再配付・再提出〉

## ③ について

iPad を活用した授業についてのアンケートの回答に「教科書と違い、目で追わなくても、今読んでいるところが分かった」「これまでは配られたプリントや資料を探すのが大変だったが、「SKYMENU」の中に単元ごとにまとまっているので、すぐに見たい資料を探せるようになった」「評価問題など、iPad で配付されていると繰り返し使えるので活用しやすい」と記入しており、対象児自身が効果を実感していることが分かった。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ○ 主観的気づき

iPad を活用して、見ることや書くことと資料等を探すことなどの学習上の困難を大幅に軽減することができた。そのため、授業中に思考する時間が増え、質問や意見を活発に発表できたと考える。

#### ○ エビデンス(具体的数値など)

- ・テキストや資料が iPad に集約されたことで、必要なものを探しやすくなり時間が短縮できた。
- ・授業の様子をビデオで確認すると、実施前と比較して発言回数や教員との会話が大幅に増えていた。思考する時間を確保できたことは、授業中の質問や発言につながり、理解を深める環境を整えることができた。
- ・授業後のミニテストは正答率が上がり、教科によっては毎回、ほぼ全問正解となった。
- ・ワークシートなど、自分なりの方法で（音声入力、キーボード、筆記）入力するようになった。

#### ○ その他エピソード(画像などを含めて)

「Note」アプリの音声録音再生や手書き変換など、生徒が家庭学習する際に役立つ機能を活用した。音声の録音再生は、主にコミュニケーション英語の発音確認などで活用している。手書き文字を予測変換できるので、ミニテストは選択問題だけでなく、書込み式の出題にも苦勞なく対応できるようになった。〈図 4〉

実施者、対象児ともに授業中の発言やミニテストの結果から学習理解が深まったと実感しているが、定期考査の結果はミニテストの正答率ほどには上がっていない。授業直後は、ポイントの説明等の記憶が鮮明でミニテストの回答ができて、その後の反復学習の不十分さや自分の考えで説明できるほどには理解が深まっていなかったと推察される。

今回の iPad を活用した取組により、学習上の負担が大幅に軽減されたことは全員が実感しており、今後も教員と生徒ともに意見交換しながら継続して取り組んでいく予定である。



〈図 4 活用の様子〉